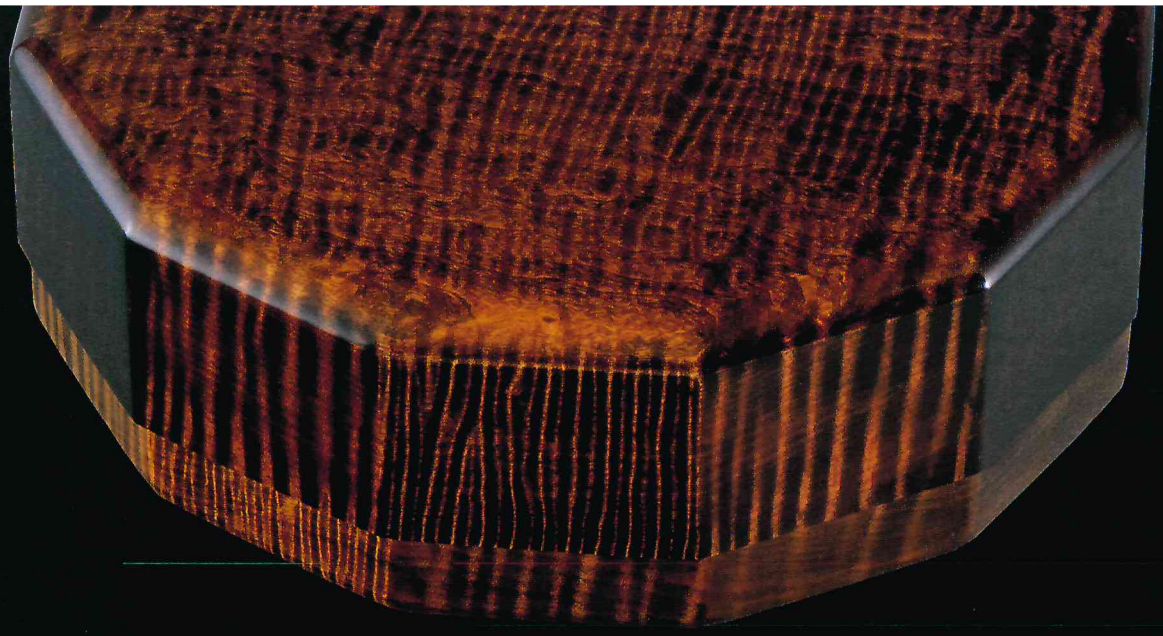


川野正毅《栃造拭漆食籠》　2024（令和6）年　個人蔵　撮影：高瀬智司

県重文指定記念展

川野正毅・塩津容子展

併設展示　新見美術館名品展2026　I

2026年 11月28日(土) ▶ 2027年 1月31日(日)

開館時間　9時30分～17時（入館は16時30分まで）

休 館 日　月曜日（但し、1月11日[月・祝]は開館して翌日休館）、年末年始（12月27日[日]～1月4日[月]）

観 覧 料　一　般600（500）円、大学生400（350）円、中高生250（200）円

※（　）内は15人以上の団体、各種割引料金　※新見市内の小中学生は「こころふれあいパスポート」提示で観覧無料

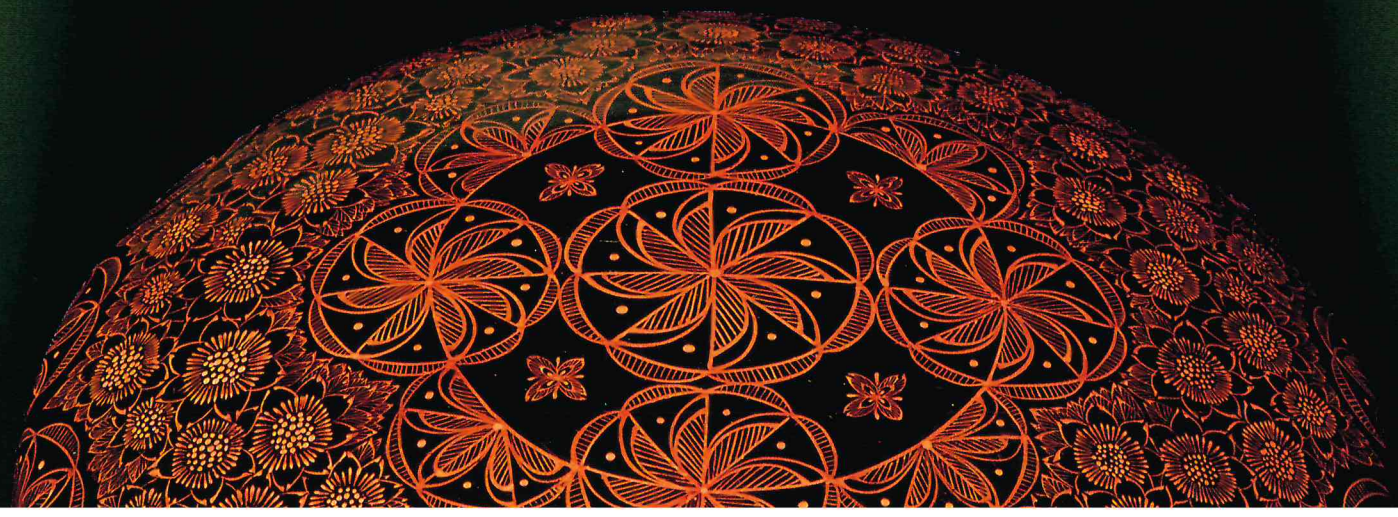
※「高梁川流域パスポート」提示の小学生は土・日・祝休日に限り観覧無料

主　催　新見市・新見市教育委員会・新見美術館

後　援　岡山県、岡山県教育委員会、岡山県郷土文化財団、山陽新聞社、産経新聞社、朝日新聞岡山総局、毎日新聞岡山支局、読売新聞岡山支局、中国新聞備後本社、新見市文化連盟、吉備ケーブルテレビ、備北民報社、新見市観光協会、新見公立大学、新見高等学校同窓会

特別協賛　創業79年 株式会社三備電業社

NIIMI MUSEUM OF ART since1990
新見美術館
〒718-0017 岡山県新見市西方361
TEL・FAX (0867)72-7851
https://niimi-museum.or.jp



塩津容子《光風、遊ぶ》　2008（平成20）年　個人蔵

県重文指定記念展

併設展示 新見美術館名品展2026 I

川野正毅・塩津容子展



塩津容子《花車》 2016(平成28)年 金重陶陽賞受賞

新見市生まれの川野正毅(1941-)は、職場のサークル活動で木工芸を始め、1977(昭和52)年に新見の木工芸作家・森田翠玉に師事しました。明快な造形と拭漆により木目を際立たせた刳物の制作を得意としており、1992(平成4)年に日本工芸会の正会員となって以降、現在まで多くの作品を制作しています。

総社市在住の塩津容子(1947-)は、1977(昭和52)年より義祖父の木彫家・塩津玉堂に、また1982(昭和57)年からは漆芸家・山口松太に師事して、黒漆に朱の映える華やかな描蒟醤を得意としています。1998(平成10)年に日本工芸会の正会員となって、数々の賞を受賞してきました。

かつて新見が主要な産地だった備中漆にもゆかりの深い2人が、このたび岡山県重要無形文化財保持者に認定されたことを受け、その作品を展示します。あわせて、新見美術館のコレクションをお楽しみください。



塩津容子《重ね牽文箱》 2009(平成21)年



塩津容子《微風》 2006(平成18)年



川野正毅《欅造雲流拭漆盛器》 2017(平成29)年 写真提供:日本工芸会中国支部



川野正毅《黒柿胴張拭漆香盆》 2025(令和7)年 撮影:高瀬智司



川野正毅《楓造拭漆提盤》 2007(平成19)年 撮影:高瀬智司



川野正毅《欅造ヒモ付盛器》 2019(令和元)年 写真提供:日本工芸会中国支部

関連事業 ※関連事業のお申込・お問合せは美術館HP、またはお電話で

川野正毅・塩津容子ギャラリートーク

日時／11月28日[土] 9:30～10:30

申込不要 参加無料(要観覧料)

ギャラリートーク

日時／2027年1月11日[月・祝] 13:30～(40分程度)

申込不要 参加無料(要観覧料)



伊勢崎淳《角花生》 2021(令和3)年

■展示と梱包を学ぶ連続講座

①展示という表現 ーインスタレーションから考える

日時／11月29日[日] 11:00～12:30

講師／牛島光太郎氏(美術家・新見公立大学准教授)

②見せるという技術 ー立体を実空間に置くことから考える

日時／11月29日[日] 13:30～15:00

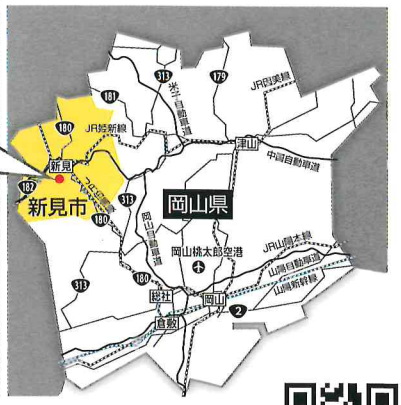
講師／森英顕氏(彫刻家・新見公立大学教授)

要申込 参加無料

※展示をご覧になる際には観覧料が必要となります。

※連続講座の詳細については新見美術館HPをご覧ください。





NIIMI MUSEUM OF ART since1990

新見美術館

〒718-0017 岡山県新見市西方361

TEL・FAX (0867)72-7851

https://niimi-museum.or.jp